

## 論文番号 220

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名(原題/訳)

Evaluation of a Workplace Brief Intervention for Excessive Alcohol Consumption  
: The Workscreen Project

職域での多量飲酒者に対する短期介入の評価：ワークスクリーンプロジェクト

執筆者

Robyn Richmond et al

掲載誌(番号又は発行年月日)

Preventive Medicine 30:50-63(2000)

キーワード

職場(workplace, worksite)・健康増進・アルコール・介入研究

要旨

(背景) 職場では、不健康な生活習慣を持つ対象者への個別の介入や、その後のフォローが行いやすい。この研究では、多量飲酒を減少させる職域での生活習慣の介入を評価するのが目的である。

(方法) オーストラリア郵便局(APOST)のネットワーク8つ(67部署・1,206人の従業員)を、無作為に介入群(33部署・631人)とコントロール群(34部署・575人)に分けた。介入群には、アルコールを含む広い範囲の生活習慣に対してのキャンペーンを行った。まず、全体に対してパンフレット等で短期介入に参加するよう意識付けをし、参加者の初期調査を行い、介入群に対してアルコールの摂取過多を含んだハイリスク行動に対する短期介入を行った。男性と女性は、別々に分析された。

(結果) APOSTの半分以上の従業員がプロジェクトに参加した。介入群の61パーセントの従業員、多量飲酒者のうち58パーセントが、生活習慣のキャンペーンに参加した。APOST組織全体に焦点を合わせての分析では、多量飲酒を有意に減少させることができなかった。しかし、介入群の中で、ベースラインとフォローアップのいずれにも参加した女性に関しては、飲酒量は有意に減少した。

(結論) 職域ベースでの生活習慣キャンペーンは、自発的に参加した従業員がアルコール消費を減少させる一助に成り得ることをこの研究は示唆している。多量飲酒と判明した従業員の半数以上がキャンペーンに参加したことは、大規模で軽い介入の節酒プログラムの可能性を示唆している。

(考察) 今回の研究は、飲酒量減少を目的としたなかでも、職域の組織全体による幅広い健康増進キャンペーンの一環として行われた初めてのアルコール介入研究である。この研究では、職域全体(APOST)として分析すると、飲酒量が有意に減少する結果とはならなかったが、ベースラインとフォローアップのいずれにも参加した女性、即ちモチベーションの高いと考えられる女性の集団では有意に差が出た。この介入研究は、他の生活習慣に関する今までに行われた介入(2年間など)に比べて介入期間が10ヶ月と短く、また、健康評価や、助言等に30~35分しか掛けない軽い内容の介入であり、このような短期間で低強度の介入にて従業員の生活習慣の変容を期待できる可能性を示している。